

活動報告書

所属：輸血検査研究班 提出日： 令和 7 年 6 月 16 日 報告者：松浦 秀哲

行事種別	講演会	行事番号	250002021	
開催日	令和 7 年 6 月 14 日(土)			
時間	開始	15 時 00 分	終了	17 時 30 分
場所・配信	名古屋市立大学病院 中央診療棟 3 階 大ホール			
テーマ	輸血スペシャリストへの第一歩～基礎から学ぶ血液管理			
生涯教育履修点数	専門教科	20	点	
司会	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 熊谷優 技師			
講師	<p>「血液型検査の基礎」 刈谷豊田総合病院 榊原千紘</p> <p>「不規則抗体検査と交差適合試験の基礎」 春日井市民病院 佐藤 由佳</p> <p>「製剤管理の基礎」 名古屋市立大学病院 天野芽里</p> <p>「輸血副反応の基礎」 名古屋市立大学医学部附属東部医療センター 中村 美香</p> <p>司会： 熊谷優</p>			
内容	<p>本研修会は、輸血に関連する基本的な知識を深め、現場で必要な実践的なスキルを習得することを目的として開催された。特に、これから輸血業務に携わる者や新たに担当する者、基礎的な内容を再確認したい者にとって非常に有益な内容であった。講師陣は、それぞれの分野で豊富な実務経験を元に、具体的で実践的なアドバイスを提供した。榊原氏は、血液型の定義や検査方法、検査における注意点を、実際の症例を交えてわかりやすく説明した。佐藤氏は、交差適合試験の意義とその実施方法を具体的な事例を通してわかりやすく解説した。天野氏は、製剤の選定基準や管理方法を実践的な視点で解説し、管理が不適切である場合のリスクについても触れた。中村氏は、主な副反応の種類やその対応方法について具体的な事例を交えながら解説した。輸血検査のみならず、製剤管理や患者観察まで体系的に取り扱う研修会は輸血医療全般を把握するのに極めて有用なものであった。この研修会は、輸血に携わるすべての医療従事者にとって、業務を安全かつ効率的に行うための第一歩となる内容であった。参加者は今後、学んだことを活かして、より安全な輸血業務の実施に貢献することが求められる。</p>			
参加者	合計：102 名（会員 95 名、県外会員 6 名、講師 4 名、実務委員 2 名、非会員 1 名、賛助会員 0 名、学生 2 名、その他 0 名）事前参加申込数：95 名			
共催、後援など	なし			

合計：現地開催（講師・実務委員・参加者）、  
ライブ・オンデマンド配信（講師・実務委員・レポート提出者）

## 活動報告書

所属：輸血検査研究班

提出日： 令和 7 年 7 月 28 日

報告者：松浦 秀哲

行事種別	基礎講座	行事番号	250002032	
開催日	令和 7 年 7 月 26 日(土)			
時間	開始	13 時 00 分	終了	17 時 30 分
場所・配信	(所在地 名古屋市) 名古屋市立大学医学部基礎教育棟 4 階微生物実習室			
テーマ	基礎講座			
生涯教育履修点数	専門教科	20	点	
司会	豊橋市民病院 中村 藍 技師			
講師	愛知県臨床検査技師会 輸血検査研究班班員 (実技指導)			
内容	<p>【基礎講座】</p> <p>本研修会は、輸血検査に関する基本的な知識と技術の習得を目的とした基礎講座であり、これから現場で輸血業務に携わる臨床検査技師を主な対象として開催された。</p> <p>講義では、まずスピットの正しい使用方法や試験管法における適切な分注量について学び、基礎的な操作の正確性を身につけることが強調された。続いて、輸血検査に必要な基本操作（識別番号の記入、分注、遠心、凝集判定など）が体系的に解説され、凝集反応の観察法と反応強度の判定方法についても詳細に示された。</p> <p>また、カラム凝集法と試験管法の比較を通じて、各検査法の特性と判定基準の違いを理解する構成となっており、さらにスライド法による ABO 血液型の確認方法も取り上げられた。血液型検査のセッションでは、2~5%赤血球浮遊液の作製から、オモテ・ウラ検査の判定、RhD 型の確認、判定保留事例への対応、緊急時の輸血製剤の選択に至るまで、臨床判断につながる一連の検査手順が実践的に紹介された。</p> <p>後半では、交差適合試験の目的や意義、反応増強剤（LISS、PEG）の作用機序、赤血球洗浄手順、間接抗グロブリン試験の正確な実施方法に加え、IgG 感作赤血球の役割や使用上の注意点についても説明された。実習形式の設問を通じて、受講者が実際に判断力を養いながら学ぶ構成とした。</p> <p>本研修を通じて、参加者は輸血検査の基本操作から応用的な判断までの一連の知識と技能を身につけることで、安全かつ確実な輸血業務を遂行する力を習得することが期待される。</p>			
参加者	合計：28 名（会員 28 名、県外会員 0 名、講師 1 名、実務委員 17 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名）事前参加申込数：30 名			
共催、後援など	なし			

合計：現地開催（講師・実務委員・参加者）、  
ライブ・オンデマンド配信（講師・実務委員・レポート提出者）

## 活動報告書

所属：輸血検査研究班 提出日： 令和 7 年 7 月 28 日 報告者：松浦 秀哲

行事種別	基礎講座	行事番号	250002043	
開催日	令和 7 年 7 月 27 日(日)			
時間	開始	9 時 00 分	終了	16 時 00 分
場所・配信	(所在地 名古屋市) 名古屋市立大学医学部基礎教育棟 4 階微生物実習室			
テーマ	情報収集をしながら検査をしよう			
生涯教育履修点数	専門教科	20	点	
司会	愛知医科大学病院 林 恵美 技師			
講師	愛知県臨床検査技師会 輸血検査研究班班員 (実技指導) 藤田医科大学ばんだね病院 杉浦 縁 技師			
内容	<p>【中級講座】</p> <p>本研修会は、輸血や検査業務に従事する中級者を対象とし、情報整理力と検査技術の向上を目的として開催した。冒頭では、「Who、When、Where、What、Why、How」のフレームワークを用いて情報を効率的に整理し、伝達を円滑に行う手法が紹介された。次に、生化学検査や CBC のデータを活用し、白血球数や CRP などの検査値を正確に評価する力を養う内容が展開された。さらに、DTT (ジチオスレイトール) 処理や酸解離試験といった特殊検査手技についても詳細に取り上げられた。特に、分子標的治療薬である抗 CD38 使用中の症例において DTT 処理が果たす役割や、IgG 感作赤血球を用いた間接抗グロブリン試験 (IAT) の具体的手順と注意点についての実臨床を想定して理解を深める内容である。また、抗体同定のパートでは、パネル赤血球を用いた反応結果の理解と抗原型の解析を通じて、Kidd、Duffy、Kell などの代表的な血液型抗原に対する抗体を正確に識別する方法が紹介された。これにより、輸血前検査における精度の向上とリスクの低減が期待される。</p> <p>本研修を通じて、参加者は情報整理および検査実務の技能を高め、日常業務の質の向上と患者安全への貢献が期待される。</p> <p>参加者同士の情報交換も積極的に行われ、今後の地域の輸血医療の向上に資する研修会となった。</p>			
参加者	合計：38 名 (会員 38 名、県外会員 0 名、講師 1 名、実務委員 19 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名) 事前参加申込数：40 名			
共催、後援など	なし			

合計：現地開催 (講師・実務委員・参加者)、  
ライブ・オンデマンド配信 (講師・実務委員・レポート提出者)

## 活動報告書

所属：輸血検査研究班

提出日： 令和 7 年 10 月 17 日

報告者：松浦 秀哲

行事種別	研究会	行事番号	250011043	
開催日	令和 7 年 10 月 11 日(土)			
時間	開始	15 時 00 分	終了	17 時 30 分
場所・配信	アーバンネット名古屋ビル 20 階 リップルスクエア			
テーマ	血液製剤の取り扱い			
生涯教育履修点数	専門教科	20	点	
司会	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 二村亜子 技師			
講師	「RBC の分割製剤の運用について」 あいち小児保健医療総合センター 石原 広大 「院内洗浄製剤について」 藤田医科大学病院 小嶋 隼人 「クリオプレシピテートについて」 JA 愛知厚生連 安城更生病院 石川 雅樹			
内容	<p>石原先生からは、小児症例を多く扱う小児専門施設の立場から、RBC 分割製剤の運用における実際的な工夫や留意点について詳しくご講演いただいた。特に、小児患者に対する輸血では少量輸血の必要性が高く、分割製剤の適切な管理が求められる。輸血部門と臨床現場との連携を交えて解説され、日常業務の改善に直結する内容であった。</p> <p>小嶋先生からは、院内洗浄製剤の意義とその現状についてご講演いただいた。近年、血小板製剤が細菌スクリーニング製剤へ移行したことで、全国的に院内洗浄が推奨されにくい状況となっているが、臨床的には依然として洗浄が必要となる症例が存在する。洗浄の適応となるケースについて具体的な対応方法を紹介され、実務担当者にとって非常に参考となる内容であった。</p> <p>石川先生からは、クリオプレシピテートの作製および運用について詳細な説明が行われた。近年、国内でもクリオプレシピテートを作製する施設が増加しており、その作製手順や品質管理の重要性が再認識されている。講演では、実際の作製工程の流れの理解を深める貴重な機会となった。</p> <p>本研究会全体を通して、輸血業務における製剤の運用や管理に関する最新の知見を共有することができた。今後もこのような実践的な情報交換の場を継続し、輸血検査技術の向上および安全な輸血医療の推進に寄与していくことが期待される。</p>			
参加者	合計：47 名（会員 45 名、県外会員 2 名、講師 3 名、実務委員 1 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 1 名、その他 0 名）事前参加申込数：50 名			
共催、後援など	なし			

合計：現地開催（講師・実務委員・参加者）、  
ライブ・オンデマンド配信（講師・実務委員・レポート提出者）

## 活動報告書

所属：輸血検査研究班

提出日： 令和 7 年 12 月 20 日

報告者：松浦 秀哲

行事種別	講演会	行事番号	250015610	
開催日	令和 7 年 12 月 13 日(土)			
時間	開始	15 時 00 分	終了	17 時 30 分
場所・配信	安保ホール 301 号室			
テーマ	緊急輸血時に考えていること			
生涯教育履修点数	専門教科	20	点	
司会	藤田医科大学医療科学部 松浦 秀哲 技師			
講師	「臨床工学士と輸血管理」 藤田医科大学病院 臨床工学部 小田 佳史 「救急全般の検査技師の役割」 刈谷豊田総合病院 磯部 勇太 「外傷外科医から見た大量輸血の考え方」 島根大学医学部 Acute Care Surgery 講座 渡部 広明			
内容	<p>本講演会は、「緊急輸血時に考えていること」をテーマに、緊急輸血に関わる多職種の視点から講演が行われた。臨床工学技士の小田先生からは、透析や手術室における輸血管理について、基本的な考え方から実際の臨床現場での対応まで、幅広い内容が紹介された。臨床検査技師が日常業務では関わる機会の少ない領域の医療を知る貴重な機会となり、輸血医療を支える他職種の役割への理解を深めることができた。</p> <p>臨床検査技師の磯部先生からは、ER における活動を中心に講演が行われ、緊急輸血を支える組織体制の構築や、臨床検査技師によるタスクシフトへの取り組みについても具体的に解説された。これらの内容は、今後タスクシフトの導入を検討している施設にとって有益な情報であった。</p> <p>特別講演では、島根大学の渡部先生より、外傷外科医の視点から緊急輸血に関する最新の知見について講演いただいた。重症外傷患者において、輸血戦略をどのように構築すれば救命につながるのかという観点から、島根大学医学部附属病院での取り組みが紹介された。ハイブリッド ER を有し、病院全体で緊急輸血に関する共通認識を持っている点は、聴講者に強い印象を与えた。また、救急医療は多職種によるチーム医療が不可欠であることが強調され、臨床検査技師として果たせる役割がさらにあることに気づきを得る講演会となった。</p>			
参加者	合計：86 名（会員 76 名、県外会員 3 名、講師 3 名、実務委員 2 名、非会員 0 名、賛助会員 5 名、学生 2 名、その他 0 名）事前参加申込数：64 名			
共催、後援など	日本血液製剤機構			

合計：現地開催（講師・実務委員・参加者）、  
ライブ・オンデマンド配信（講師・実務委員・レポート提出者）

## 活動報告書

所属：輸血検査研究班 提出日： 令和 8 年 1 月 13 日 報告者：松浦 秀哲

行事種別	講演会	行事番号	250019221	
開催日	令和 8 年 1 月 10 日(土)			
時間	開始	15 時 00 分	終了	17 時 30 分
場所・配信	名古屋市立大学病院 大ホール			
テーマ	輸血検査研究班 1 月研究会・精度管理報告会			
生涯教育履修点数	基礎教科 20 点			
司会	愛知県がんセンター 早川 英樹			
講師	「2025 年度愛知県臨床検査技師会 精度管理調査報告」 名古屋市立大学病院 南里 隆憲 「他施設から学ぶ輸血検査の精度管理」 日本赤十字社東海北陸ブロック血液センター 加藤 静帆 「基礎から学ぶ不規則抗体検査と交差適合試験」 オーソクリニカルダイアグノスティックス 吉田 純平			
内容	<p>本研究会は、「精度管理報告会」として開催された。南里先生からは 2025 年度愛知県臨床検査技師会精度管理調査の結果を報告していただいた。概ね良好な結果であり、種々のマニュアルや手順書が周知された結果であると考えられた。一方で、直接抗グロブリン試験の陰性対照や抗補体成分の検査については認識が不十分であることが窺われた。来年度からは評価項目とすることで一層の周知と標準化に努めていきたいとの報告であった。</p> <p>2 つ目は、加藤先生から血液センターでの精度管理の状況を中心に精度管理のあり方、具体的な精度管理の方法について解説があった。検査の精度管理に留まらず、輸血療法全体に関わる精度管理を実施し、質を高める必要があると解説された。</p> <p>最後にオーソ社の吉田様から基本から学ぶ不規則抗体検査と交差適合試験について講演をいただいた。輸血を安全に行うためには、不規則抗体検査を中心とした輸血前検査を正しく理解し、適切な手順で実施することが不可欠であることをお示しいただいた。また、間接抗グロブリン試験 (IAT) を中心とした検査法の原理や注意点、日本人に多い抗体の特徴、検査精度を保つための管理の重要性についてもご講演いただいた。</p> <p>どの講演も参加者にとって有益な情報を得ることができるものであった。</p>			
参加者	合計：51 名 (会員 44 名、県外会員 1 名、講師 2 名、実務委員 2 名、非会員 0 名、賛助会員 2 名、学生 0 名、その他 0 名) 事前参加申込数：34 名			

合計：現地開催 (講師・実務委員・参加者)、  
ライブ・オンデマンド配信 (講師・実務委員・レポート提出者)

共催、後 援など	なし
-------------	----

合計：現地開催（講師・実務委員・参加者）、  
ライブ・オンデマンド配信（講師・実務委員・レポート提出者）